

「東京こころといのちのゲートキーパー」養成研修の実施状況について

1 養成人数

開催日	対象者	参加者数
平成19年12月20日	都福祉保健局本庁職員	30名(57名) (27名は1~3のみ参加)
平成20年1月21日	杉並区職員	108名
平成20年2月14日(予定)	都保健所職員	50名(予定)

2 プログラム

科	目
1 講義	「自殺の危険について正しく理解するために」 うつの症状と自分で気づく方法 「死にたい」と思う気持と危険性を把握できるために 話の聴き方
2 自死遺族からのメッセージ	遺族の思いや本人の置かれていた状況 支援者に望むこと
3 NPO活動からみた自殺対策の重要性	自死遺族への支援について 社会全体での取組について
4 演習	実践から学ぶ・グループワーク

杉並区研修は1~3で実施

3 研修に対する評価(12月20日参加者アンケート結果)

(1) 全体評価

大いに参考になった	68%
参考になった	32%
どちらともいえない	0%
参考にならなかった	0%

(2) 一番参考になった科目

自殺の危険について	20%
自死遺族からのメッセージ	46%
NPO活動	21%
グループワーク	13%

(3) 研修全体に対する意見(例)

- ・自殺の危険因子が個人だけではなく社会全体が絡んでいるということ、日常的身近なものであることを認識した。
- ・自殺とうつ状態が深く関与していることがよく解った。職場や家庭で常に目を配る必要があると認識した。
- ・自死遺族の解放されることのない自責の念を重く受け止めた。自分自身が何ができるのかを考えていく契機になった。
- ・どの段階で専門家につなげるべきか、難しいと思った。